

令和7年度

地域とともにある学校づくり

保谷小学校5年生

コミュニティ・スクールの充実

# 西東京ふるさと探究学習

単元名：お米博士になろう！  
(活動名)

ねらい：お米づくりの一年を体験することで、農家の人々がどのようなことに気を付けながら作業を行っているのか考えるとともに、農家の方々の思いや願いに気付き、自らの食生活を見直し、よりよくしていこうとする。

## お米の学校

土づくりから稲刈り作業の工程を体験しました。バケツ稲で育てて、無事に収穫できる喜びを体感しました。

### 種もみ【4月】

感想：沈むということは中がずっしりと詰まっ  
ていて健康で良い種ということだね。



### 土づくり【5月】

感想：農家の人たちはこの何万倍もの広い  
土地を毎日欠かさず管理しているなんて  
すごい労力だと思いました。



### 脱穀【11月】

感想：普段は精米された白いお米しか見たこ  
とがないけれど、お米の籾殻を取り除くとこ  
んな色をしていると初めて知りました。



グループでお米について課題を設定して、本や冊子、インターネットを活用して調べ学習を行いました。  
スライドにまとめて友達に発表することで相互の学びが深まりました。【12月】

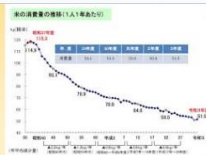
みんなにお米を食べてもらうために

日本人がお米を食べる量はだんだんと減っている！！

もっとお米を食べてもらうために何をしていますの？

<予想>

新しい米を使った料理を考えていると思う。



社会科の「米づくりのさかんな地域」で学習したことも踏まえて、より日本人に安心してお米を食べてもらえるために、私たちは何が  
ができるか調べて発表しました。

ドローンを使った肥料散布やスマートフォンを活用した水質管理といった最新の農作業の様子を知り、技術革新の凄さを感じていました。

令和時代(今)

後継者不足や生産コストの上昇などといった課題があります。一方で、AIを活用した営農のスマート化も進んでいます。



## まとめ

体験学習・調べ学習を通して、普段当たり前で食しているお米に対する印象が大きく変わり、自分たちができることについて真剣に考える様子が伺えました。社会科「食料生産とわたしたちの暮らし」の農業の取り組みや家庭科「食べて元気！ご飯とみそ汁」の調理実習ともタイアップし、体感した事柄や講師の方から教わった知識が、教科横断的な学習を展開する上で大きな成果となりました。